

## 記憶の灯籠

見えないガラスは視認できないが、私たちは空間の断絶を感じ、見えないガラスを認識する。区切られるものは、物理的なものに限らず、ガラスは時に精神をも区切る曖昧さを持つ。

見えないガラスの中に、触れられそうで触れることのできない震災の記憶を封じ込め、時間と精神の繋がりを遮断する。

風化しない建材であるガラスは、百年後、震災を知らない人々の生きる時代に遺産を保存し、人類をみちびく道標としてあたたかい風景の一部となる。



### 東日本大震災のがれきを保存する



写真提供元  
<http://yutlove.sakura.ne.jp>

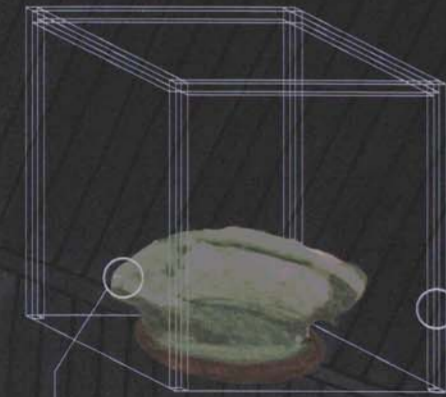
東日本大震災のがれきを保存し、人類は未来へ進んでゆく。遺すためには、放射線を遮蔽し、ゴミではなく遺産として風景に溶け込ませることが必要。

### ガラスの灯籠を組み立てる

放射線遮蔽ガラスに反射防止フィルムを貼る。視認される小口には蓄光ガラスを組み合わせることで、夜は枠組みが発光し、人々の生活を優しく照らす。

放射線遮蔽ガラス

反射防止フィルム



放射性物質を蓄積する苔植物が、がれきを覆う。蓄光ガラス植物の経年変化はがれきを風景に溶け込ませる。また、ガラスとは対照的に、生々しい記憶を風化させて保存する。

→ 時間

### 灯籠は避難時に人々を誘導する

海岸から高台にわたってガラスの灯籠が置かれ、夜の災害時には人々を安全な場所へ導く。

